

## 令和4年度(2022年度)第3回南区まちづくり懇話会 会議録(要旨)

1 日時 令和4年(2022年)12月21日(水)午後2時~4時

2 場所 アスパル富合 研修室

3 出席者 計41名 (出席者名簿のとおり)

- ・南区まちづくり懇話会委員 11名
- ・元南区まちづくり懇話会委員 6名
- ・熊本県立大学学生 5名
- ・熊本市職員 19名

4 内容

(1) 開会

(2) 区民部長挨拶

(3) 報告

「南区まちづくりビジョン」区民アンケート結果について

(4) 意見交換

「南区まちづくりビジョン」検証ワークショップ

(5) 閉会

5 ワークショップにおける各基本目標の意見

### 基本目標1(農・漁業)

- ・体験イベントへの参加を通して農水産業の理解を深める。
- ・農業はお金がかかるとされているが、農家へ研修に行く制度を活用すれば、給料をもらいながら農業ができ、それほどお金はかからない。このような制度を活用して就農につなげていくとよい。
- ・農・漁業者は安全安心で高品質のものを継続して生産する。
- ・住民は、買い物をする際に地元の農水産物を手にとり、地産地消に心がける。

<柴田会長>

農漁業については、区には実質的な権限がないので難しい議論になったと思われるが、後継者の育成に気軽に参加してもらうのは大事なこと。また、消費者がよいものをたくさん手にとり、消費に繋げるのも大切。

### 基本目標2(歴史・文化)

- ・フットパスなど広報不足が課題であるため、周知広報のためにデジタル化し、アプリをつくとよいのではないか。
- ・フェスタ等の開催で歴史文化活動の展示を行ってみるとよい。
- ・南区のSNSを見てもらうために、歴史的なものに“#(ハッシュタグ)”をつけた

投稿をする。

・行政まかせでなく、地域住民が主体となった取り組みを行う。学校や地域住民への働きかけ、提案を住民が主体となってやる。

・地域の歴史文化に着目したイベントを行っていく。

<柴田会長>

「関心を持ってもらうためには？」という議論では、SNSやパンフ作成などあるが、そもそもそれを知らないという問題がある。

イベントに歴史文化のことを織り交ぜるとのことなら、自分達でできることもあると思われる。

### 基本目標 3 (自然・環境)

・子どもがいる世代の人材育成が必要であるが、単なる育成ではなく副業として成り立つレベルの育成が必要。

・区内の関係団体のOB、OGが講師となり、今のPTA世代（子どもがいる世代）が参加するような講座を開いてはどうか。

・緑化は維持管理の問題があるが、やろうとする気持ちを育むことは大事。そのために植樹活動などに子どもたちが参加し、自然に対する知識を育てることが重要。

・行政がその受け皿の仕組みをつくる必要がある。

・乗合タクシーなどは、停留所ではなく個人宅まで来てもらえればよい。

・日常の買い物は移動販売でできればよい。

・公共交通機関を利用して環境負荷を減らすということで目標が掲げられているが、利便性の向上で環境負荷がなくなるのか疑問である。

・発想の転換が必要で、ものやサービスを得るために、公共交通を利用しなくてもよい社会づくりが必要ではないか。

<柴田会長>

各種団体の世代交代、人材育成という面での提案があった。子どもの参加、教育課程へ組み込むという点では、基本方針2と共通した考え方であった。

### 基本目標 4 (健康・福祉)

・「運動」というテーマについては、コロナ禍により特に室内の活動に影響が出ている。

・スマホでリモート体操という手段はあるが、スマホをうまく扱うことができない人がいるという課題がある。

・スマホの講座などを開くという方法もあるが、人が集まりにくいという課題もあるため、イベントなどに組み込めるとよい。

・住民としては、イベントに積極的に参加したり、ウォーキングアプリを活用したりしてみてはどうか。

・子どもがコロナ禍で家にこもりがちになったという声もあるため、プレイパークを子どもと高齢者の交流の場として活用してはどうか。

・現役世代の生きがいづくりのために、若いうちから地域に目を向けて仲間づくり、

つながりづくりをやっていくべき。

<柴田会長>

コロナの話が出たが、健康体操などは、以前から DVD を見ながらやるというやり方もあった。ただ、単純に集まって会話を楽しむという面での健康づくりを考えると、まだ課題があるのかもしれない。

#### 基本目標 5 (子育て)

- ・それぞれの基本目標をテーマにした取り組みを取り入れたイベント（フェスタ等）を再開してはどうか。
  - ・JRや農協、商工会等企業の参画により、世代間交流も深まるのでは。
  - ・地域の中心となるキーマンが必要であるが、子育て支援の実務者が地域会議の中で、意見を発信する機会がない。
  - ・子育てについて意見を気軽に言える場がない。
- 校区自治協議会等の会議の場で、まちセンや区役所と一緒に、情報発信をしていくとよい。
- ・育児サークル等に参加した人の実際の声を発信する必要がある、公式 LINE や市HPを活用すべき。
  - ・全体として十分できているが、コロナ禍で活動できていない部分が多く、活動を再開すればほとんどのことが改善できると思われる。

<柴田会長>

他の基本目標でも、子ども達の参画についての話題がたくさん出た。子育ての観点からは他の目標との連携も重要である。

情報の発信の仕方と受け取り方については、コロナ禍においてさらにクリアになったと思われる。同じ SNS を使っている、関心事が違えば受け取る情報は全く違って来る。使う人物が関心のある情報が流れてきて、欲しい情報が流れてなくなるといっても SNS の特徴であるため、「受け取り方」というのは共通して重要な問題。

#### 基本目標 6 (安全・安心)

- ・ハザードマップの有効活用ができていないという課題があるが、転入者に対して地域版ハザードマップを配布し地域の危険情報を共有するとよい。
- ・地域で要配慮者を把握し個別の避難計画を作る。
- ・地域住民だからこそわかることもあるので、区だけで行うのではなく、地域が連携してネットワークを作り、誰も取りこぼさない支え合う体制を作ることができるのでは。
- ・大雨に耐えられる基盤整備が整っていない箇所もあり、特に飽田地区では恒常的な冠水が発生しているという状況。
- ・国、県、市の河川改修は少しずつ進んでいるものの、管内でどの程度の雨が降ればどこが冠水するという情報を行政側も提供し、地域と共有し危険を防ぐ努力が必要。
- ・防災、防犯活動に関わる人のつながりの希薄化、担い手不足、高齢化などの問題については、活動に関わる方を地域の高齢者や PTA 以外に、民間企業等にも拡充すると

よいのではないか。

<柴田会長>

ハザードマップを作るのはスタートで、作った後にどう生かすかが重要。南区は新規転入者が増えているので、安全面、防災面に関するコミュニケーションは重要だと思われる。